科目名	成熟期・慢性看護学特論Ⅲ（Advanced Study on Chronic Nursing for Adults and Aged Ⅲ）			科目コード	M211
選択区分	選択	履修時期	1後	単位数（時間）	2単位（30時間）
担当教員	島田　美鈴・松井　美由紀			関連DP	看①②③⑤⑥
授業概要	がん看護を深めるための土台としてのがん看護実践における考え方・知識・技術を教授し、学んだ専門的知識を用いて日々の看護実践・研究能力を養う。授業は担当者によるプレゼンテーションを中心に進める。				
授業目標	がんは今や闘病過程の長い慢性疾患として捉えられている。本科目ではがんを慢性疾患モデルで捉え、命のある限りがんと共存しながらその人らしく生き続けるがんサバイバーの理解と支援について探求する。がんサバイバーシップの考え方を理解した上で、がん患者や家族の理解および看護援助に活用できる諸理論や概念を学ぶ。そして、自己の看護体験を本科目で学んだ諸理論や概念で意味づけることによって今後の実践適用について探求する。				

授業内容とスケジュール

回	項目	内容		担当者
1〜2	がん看護の基盤となる考え方	ガイダンス がん看護の基盤となる考え方：がんサバイバー、がん患者とQOL、がん医療と看護倫理、がん患者とコミュニケーションを取り上げる。		島田美鈴 松井美由紀
3〜9	がん看護実践の基本概念	がん患者と家族の理解、がん看護実践の基本概念 ①セルフケア、②喪失と危機、③チームアプローチ、④ヘルスプロモーション、⑤リハビリテーション、⑥症状マネジメント、⑦エンド・オブ・ライフ等	がん看護実践の基本概念を選び、選定した概念のプレゼンテーションを行う。また選定した概念を用いている文献にて概念の理解を深める。	
10〜11	がん看護の専門性	がん看護専門看護師の実際の活動（教育協力者）		
12〜13	がん患者とゆらぎ がん患者と意思決定	不確かさ、ゆらぎ、意思決定を用いた文献を詳読し、患者の不確かさ、ゆらぎ、意思決定への理解を深める。また、自己の看護体験に基づいた事例を提示し、ディスカッションを行い、がん患者に対する看護を探求する		
14〜15	まとめ	本科目で学んだがん看護の基本となる考え方や基本概念を振り返り、今後の看護実践への活用についてディスカッションを行う		

成績評価方法	課題レポート（60%）・プレゼンテーション（40%）の評価によって総合的に行う。
必携あるいは 参考図書・文献	参考図書　①小島操子他日本がん看護学会教育研究活動委員会コアカリキュラムグループ委員翻訳：がん看護コアカリキュラム、医学書院　②鈴木志津枝・小松浩子監訳：がん看護ＰＥＰリソース、医学書院　③その他、Oncology Nursing Forum、Cancer Nursing、日本がん看護学会誌より文献を紹介する。
授業時間外の 学習について	プレゼンテーションは全て自己学習が必要となる。所用時間に関しては、個人差あり。
関連科目	108 疾病制御学特論、203 看護研究方法論、204 理論と看護実践、 209 成熟期・慢性看護学特論Ⅰ、210 成熟期・慢性看護学特論Ⅱ、 212 成熟期・慢性看護学演習
備　　考	項目の順序や内容の変更の可能性がある。